

〈今月の紙面〉

- ・協会・連盟総会での主催者挨拶(要旨) (2面)
- ・「食料・農業 知っておきたい話」-86- (3面)
- ・18年 農作業中の熱中症死亡者過去最多(4面)
- ・秋冬キャベツ ヘアリーベッチ緑肥栽培法 (5面)
- ・乳用育成牛 配合3割代替、飼料費約1割減 (6面)
- ・粉砕粉米・トウモロコシサイレージ給与 (6面)
- ・送風こまめに 湿気・熱のこもり防ぐ (7面)
- ・ゼンカイミート ㈱工場直売再開 (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
 TEL 03-3586-5843
 FAX 03-3586-5846
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

第8回定時総会を開催

新役員陣で開拓営農の発展支援

振興協会

全国開拓振興協会は6月12日、東京・赤坂の三會堂ビル石垣記念ホールで第8回定時総会を開催した。

開会挨拶で西谷悟郎会長は、「開拓営農の持続的発展により、国民・消費者に安心・安全な食料の供給を図ることが、一層重要な課題となっている」として、当協会は、開拓営農振興事業などを着実に実施し、開拓農家の持続的発展に資することとしてきたと述べた。

さらに今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で牛枝肉価格が低下しており、肥育牛経営を行う開拓者に対して、出荷頭数に応じて助成金を交付する緊急支援事業を創設するとして、(2面に挨拶要旨)

続いて、西谷会長が議長となり、議事に入った。まず、報告事項①19年度事業報告の件と第1号議案19年度事業報告の附属明細書、貸借対照表、正味財産増減計算書等の承認の件は関連があるため一括上程され、島田英

次いで、役員の内閣を承認し、理事8名、監事3名を選任した。

次に、報告事項②19年度事業計画及び予算の件、報告事項③資金調達の件、報告事項④重要設備投資の見込みの件、第2号議案19年度役員報酬及び費用に関する規程の一部改正の件等の4議案が一括上程され、報告事項は了承され、議案は賛成多数で承認された。

次に、報告事項⑤19年度事業計画及び予算の件、報告事項⑥重要設備投資の見込みの件、第2号議案19年度役員報酬及び費用に関する規程の一部改正の件等の4議案が一括上程され、報告事項は了承され、議案は賛成多数で承認された。

次に、報告事項⑦重要設備投資の見込みの件、第2号議案19年度役員報酬及び費用に関する規程の一部改正の件等の4議案が一括上程され、報告事項は了承され、議案は賛成多数で承認された。

「国際貿易協定は既に発効さ

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己



畜産経営対策を緊急要請

連盟会員代表が意見集約

に、ブロック・会員代表が要請項目統一へ意見集約を図った。

その後連盟は、会議結果を基に、要請書「新型コロナウイルス感染症拡大に係る畜産経営対策の緊急要請」と同「21年度畜産・酪農政策並びに予算に関する要請をまとめ、同日の中央常任委員会での拡充・強化、⑤震災復興関連対策の拡充・強化と早期実現」を重点事項として挙げていた。

①では、牛・豚・鶏の生産者負担金納付免除の継続、③畜産経営維持に必要な資金の柔軟な対応、④畜産物の消費拡大や販路拡大のためのPR活動並びに輸出拡大等に係る予算措置」を緊急要請。

21年度に向けては、①国内畜産・酪農の経営安定対策と生産基盤の拡充・強化、②補助事業の拡充・強化、③国際貿易交渉に係る対応、④環境衛生対策等関連諸対策の拡充・強化、⑤震災復興関連対策の拡充・強化と早期実現」を重点事項として挙げていた。

全日本開拓者連盟は6月11・12日、畜産・酪農政策要請運動を展開した。

11日、三會堂ビルで「21年度畜産・酪農政策並びに予算要請打合わせ会議」を開催(写真)。

北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各ブロックでとりまとめた政策要請等要請事項を基に、策並びに予算要請打合わせ会議を開催(写真)。

北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各ブロックでとりまとめた政策要請等要請事項を基に、策並びに予算要請打合わせ会議を開催(写真)。

「国際貿易協定は既に発効さ

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

新委員長に菊地氏選任

連盟第75回 通常総会 20年度運動方針を決定



全日本開拓者連盟の第75回通常総会が6月12日、三會堂ビルで開催された。

開会挨拶で平嶋勝博委員長は、「国際貿易協定は既に発効さ

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

第8回定時総会



写真① 全国開拓振興協会新役員陣。右から平木野原・鈴木理事、松本専務、西谷会長、村上理事、林監事(伊藤・井上理事、坪・村松監事は欠席)

同② 全日本開拓者連盟第75回通常総会

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

野原修一(東北)
 鈴木幸隆(関東)
 井上富男(九州)
 平木 勇(全国)
 村上進(全国)
 村松俊昭(全国)
 林 正己

本紙は無償で提供しています。
 ご希望の方はお知らせ下さい。



西谷振興会長の総会挨拶

・消費者に安心・安全な食料の供給を図ることが、一層重要な課題となっています。

当協会といたしましては、協会の運営の簡素化、合理化を徹底するとともに、これまで実施してきた事業の実施状況及び成果を考慮して、開拓農家振興事業などを着実に実施し、開拓農家の持続的発展に資することとしてまいりました。

また、最終年度となる「開拓畜産・酪農生産基盤強化事業」につきましては、乳用牛の自家生産や肥育向け初生牛及び繁殖豚の導入などを行ったところであり、各事業を円滑に実施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体の協力の下に取り進めていく必要があります。本年度も一層緊密な連携をとりながら事業を実施することとします。

新型コロナウイルスの影響による牛肉の枝肉価格や和牛の子牛価格の下落により、肥育牛経営農家や和牛繁殖農家の影響は極めて深刻な状況になっています。

国内の課題、国際情勢の厳しい状況の中にあつて、中山間地域など厳しい立地条件の下で意欲的に営農に取り組んでいる開拓農家の交流を促進するとともに、開拓農家の持続的発展により、国民

開拓農家に対して助成し、3年間で当初想定していた事業費を1億円超過し、総額4億3千万円を執行したところであります。

さらには、今年度は、昨日の理事会で、新型コロナウイルスの影響により、事業計画を変更し、新たに開拓肥育牛経営農家に対して、出荷頭数に応じた助成金を交付する緊急支援事業を創設したところであります。

平嶋委員長の総会挨拶

国際貿易協定は既に発効され、新型コロナウイルス感染症拡大による経済低迷の追い打ちを受け、国内農畜産業は前例のない重大な危機に直面を迎えており、強い危機感を抱かざるを得ません。

情勢を踏まえ、国に対し国内農畜産業を守るためさらなる対応を要請し、これからの営農が確

国内農畜産業の再生産可能な持続的経営安定に向け、組織をあげてこの問題に取り組んで行かねばなりません。

我々全国の開拓者が、その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するため、ともに闘おうではありませんか。

さて、本日の総会議案は第1号議案から第6号議案であります。我が国農業をめぐる諸情勢と諸問題を分析・検討し、2020年度の運動方針を提案いたします。

皆様の絶大なご協力で円滑な総会運営ができますよう、お願い申し上げます。



国内農畜産業の再生産可能な持続的経営安定に向け、組織をあげてこの問題に取り組んで行かねばなりません。

我々全国の開拓者が、その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するため、ともに闘おうではありませんか。

さて、本日の総会議案は第1号議案から第6号議案であります。我が国農業をめぐる諸情勢と諸問題を分析・検討し、2020年度の運動方針を提案いたします。

皆様の絶大なご協力で円滑な総会運営ができますよう、お願い申し上げます。

生乳生産量 20年度1.4%増

Jミルク見通し 夏場の需給ひっ迫か

Jミルクは5月27日、全国の生乳生産量は、前年度の生乳・牛乳乳製回(1月)予測値より0.1%増の1億1,070万リットルを公表した。

20年度の生乳・牛乳乳製回(1月)予測値より0.1%増の1億1,070万リットルを公表した。

1億1,070万リットルを公表した。

月	生乳供給量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)		脱脂粉乳・バター等向			
	A	前年比	B	前年比		前年比	前年比	前年比			
4月	285	99.4%	271	95.0%	5	78.6%	8	27	89.7%	35	144.0%
5月	292	100.4%	284	92.6%	5	79.6%	3	31	78.4%	34	197.0%
6月	271	99.7%	313	101.2%	5	87.6%	-46	57	107.1%	10	100.0%
7月	262	97.7%	320	107.4%	5	83.0%	-62	66	134.4%	4	27.8%
8月	253	99.9%	308	106.6%	5	86.0%	-60	64	120.5%	4	33.8%
9月	249	99.5%	307	101.3%	5	88.6%	-62	66	107.0%	4	91.6%
第1四半期	847	99.8%	869	96.3%	14	81.7%	-35	114	93.6%	79	153.0%
第2四半期	764	99.0%	934	105.1%	14	85.8%	-184	196	119.6%	12	39.3%
上期	1,612	99.4%	1,803	100.6%	28	83.7%	-219	310	108.5%	91	110.8%

の746万3千と、2年連続の増産を見込んだ。しかし、7~8月の学校給食用牛乳(学乳)の大幅な需要増により、夏場の需給はひっ迫すると予測している。

生乳生産量を地域別にみると、北海道は前年度比3.2%増の422万3千と、都府県は0.9%減の324万1千の見通し。北海道は乳用牛頭数の増加により、通年で前年同月を上回る見込み。これまで減少していた都府県も下半期には増頭となり、生産量の減少幅が縮小する見通し。

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大による学校給食の休止や飲食店の休業で5.3%減、第2四半期は、前掲に基づいて7~8月に学乳の需給が推測され、乳製品の需給について一転して5.1%増となる見通し。はつ酵乳は、上半期計で9.3%増を(4~9月)に限定した見込みである。

飲用の需要期である第2四半期は、生乳の需給がひっ迫し、過去にない状況となる可能性を指摘。北海道から都府県への移入量(道外移出量)は、7月以降、大幅に増加する可能性が高く、上半期計で8.5%増の31万と見通している。

20年度脱脂粉輸入枠削減

バター枠は変更せず 農水省

農水省は5月27日、バター枠を変更しないが、脱脂粉乳は4千トから大幅に削減し、750トとする。

「高収益作物次期作支援交付金は、施設園芸の交付金を引き上げる(10万当たり5万円)花き等(80万円、果樹25万円)」。さらに、花き・茶等の高品質なものを厳選して出荷する取り組みの支援を、6府県から12府県へと増え、「前年並み傾向」は41都道府県から6県減つた。「増加傾向」は前回同様なかった。ただし、北海道、東北、新潟など主産地は前年並み傾向で、同省は「全体として前年並みが見込まれる」としている。

肉用子牛生産者に奨励金

第2次補正予算農水658億円

20年度第2次補正予算00億円

6月12日、参議院本会議で可決、成立した。4月12日に成立した第1次補正予算に続き、新型コロナウイルスの感染拡大による影響に対処する。

農水省関係の総額は658億円(うち農畜産業振興機構(ALIC)事業108億円)。農業の経営継続のための措置(新規事項)が柱となる。

①省力化機械の導入など生産・販売方式の転換に必要な経費(補助率3/4、上限100万円)

②消毒、換気設備等の感染防止対策(定額、上限50万円)

合わせて最大150万円を上限に支援する。農協等の支援を受け、経営計画を策定・申請する。

このほか、第1次補正予算の「経営維持・再建のための資金繰りの対策」に34.9億円を積み増し、強化する。また、1次補正の運用改善として、

主食用 需給緩和の懸念

20年産米の作付け意向

農水省は5月27日、20年産の主食用米、戦略作を公表した。主食用米の作付け意向を19年産実績に比べて「前年並み傾向」としている。

「増加傾向」は前回同様なかった。ただし、北海道、東北、新潟など主産地は前年並み傾向で、同省は「全体として前年並みが見込まれる」としている。

一方、戦略作物の作付け意向は、減少傾向に転じた県が多い。加工用米で減少傾向が6県から17県、飼料用米で10道県から20道県、WCS用稲で9道県から16道県へと増えている。

同省は、19年産の主食用米の生産量726万トに対し、20年産の需要量を717万トと見通している。前年並みの作付面積になると、需給緩和が懸念され、「需要に応じた生産・販売に一層取り組むことが重要」としている。

食料・農業 知っておきたい話 第86回

コロナ・ショックで露呈した食肉問題

東京大学教授 鈴木宣弘氏

安いものにはワケがある〜米産肉の秘密

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

労働や環境コストを負担しないのは不当な安さ

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。

米産肉の安さの秘密が、最近よく報じられている。安いものには必ずワケがある。食肉生産の肥育における成長ホルモン投与も安全性を犠牲にしてコストを下げる効果があるが、米産肉の安さには、もう一つ露呈したのが食肉加工場の劣悪な労働環境だ。米産肉の安さには、低賃金・長時間労働の強要が新型コロナウイルスの感染につながったことをアジア太平洋資料センター(PARC)の内田聖子さんが詳細に報告している(https://hbol.jp/218839)。



スイスは2017年の新憲法において「食料安全保障」を明記し、輸入相手国に対しても持続可能な生産への配慮をチェックし、生産段階で燃料や化学肥料を大量に使うなど、環境への配慮が低く、安全・衛生水準が低く、労働条件が劣悪な国からの輸入を制限する方向性を規定した(石井勇人共同通信アグリラボ所長)。

日本が輸入する食料に対して、持続可能性に配慮しないことによる不当な安く供給されるものは受け入れない、という明確な基準を設定し、貿易交渉で主張すべきであろう。関税削減を強いられている中で、そうしたルールを明確化し、安全・安心な国産食料を守る一つの防波堤にしていく必要がある。

一方、国内では、コロナ・ショックによる外食需要などの激減で和牛の在庫が積み上がったため、経済対策の一環として「和牛券」が提案されたが、それが報道されるやいなや、それだけがク

和牛商品券の波紋〜コロナ・ショックは追い打ち

一方、国内では、コロナ・ショックによる外食需要などの激減で和牛の在庫が積み上がったため、経済対策の一環として「和牛券」が提案されたが、それが報道されるやいなや、それだけがク

和牛商品券の波紋〜コロナ・ショックは追い打ち

一方、国内では、コロナ・ショックによる外食需要などの激減で和牛の在庫が積み上がったため、経済対策の一環として「和牛券」が提案されたが、それが報道されるやいなや、それだけがク

和牛商品券の波紋〜コロナ・ショックは追い打ち

一方、国内では、コロナ・ショックによる外食需要などの激減で和牛の在庫が積み上がったため、経済対策の一環として「和牛券」が提案されたが、それが報道されるやいなや、それだけがク

和牛商品券の波紋〜コロナ・ショックは追い打ち

一方、国内では、コロナ・ショックによる外食需要などの激減で和牛の在庫が積み上がったため、経済対策の一環として「和牛券」が提案されたが、それが報道されるやいなや、それだけがク

和牛商品券の波紋〜コロナ・ショックは追い打ち

漁家からビジネスを引き剥がす法律が立て続けに成立し、かたや豊みかけの貿易自由化とで、いま日本の農林水産業界は苦しめられている。直近では、日米貿易協定が発効するや、1月だけで米国の牛肉輸入が1.5倍になるなど、輸入牛肉の想定以上の増加で国産が押しやられている。コロナ禍の影響の前に、この極端な消費の急激な減少は、消費者を支援する形で生産者も支援するのは有効な手段だ。だが、このタイミングで、特定分野が優遇されている誤解を与えたら、国民理解醸成に完全に逆効果である。

長年、日本の農家は農業を生業として自動車などの利益を増やそうとする意図的な農業悪玉論に苦しめられ、我々はその誤解を解こうと客観的なデータ発信に尽力してきたが、これでは、やはり農水産業は利権で過保護に守られているのだという誤解を増幅してしまう。努力が水の泡だ。過保護どころか、農林

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

得になつていない。日本は諸外国に比べたら極めて保護されている。世界的にも最も自力で競争しているのが日本の農家。牛肉券の想いはわかるが、過保護と誤解される元も子もない。何とか、これを農業への正しい国民理解醸成の再構築の機会に反転させなくてはならない。

「大屋原開拓之碑」 群馬県吾妻郡長野原町



群馬県の北西部、吾妻野を切り開いた。郡長野原町は人口約5千で、地域のほとんどは標高500以上の高地。南部の北軽井沢地区には戦前から、避暑を目的に別荘が建てられた。戦後、浅間山の東北麓の6開拓地に、満州(現・中国東北)からの引揚者らが入植し、荒蕪たる原野を切り開いた。レタス・キャベツ畑や牧草地が広がる現在の大屋原(おおやほら)地区に、満州に送り込まれた「満蒙開拓団」の慰霊塔と開拓記念碑がある。慰霊塔はレンガ造りで、刻まれている写真上。慰霊塔の隣は大屋原公民館で、敷地内に開拓記念碑がある。大屋原開拓就農組合が76年を期して建立したもので、碑文には、「戦後の極度な食糧事情の不良なにかあつて、酷暑とたび重なる台風、冷害、凍害と戦いつつ、助け合いはげましあつて築いてきたこの『村づくり』の汗と涙の三十年の歴史こそは、将来ここに生きるものにとつて永遠に忘れるはならぬものである」と記されている。



銘は「大屋原開拓之碑」(写真下)。入植は47(昭和22)年3月から始まった。57年に電気導入、61年に水道完成。記念碑建立時の農家戸数は41戸だった。碑文には、「戦後の極度な食糧事情の不良なにかあつて、酷暑とたび重なる台風、冷害、凍害と戦いつつ、助け合いはげましあつて築いてきたこの『村づくり』の汗と涙の三十年の歴史こそは、将来ここに生きるものにとつて永遠に忘れるはならぬものである」と記されている。

量販店 和牛3、4等級8割 19年度下半期食肉取扱実績

農産産業振興機構は6月3日、「食肉販売動向調査結果(20年度上半期)」を公表した。全国主要な小売業者(量販店19、食肉専門店63社)及び鶏肉が1割それぞれ増加した。牛肉の実績の内訳は、国産18%(和牛が最も多かった。量販店では比較的価格な等級、部位を中心に取られていることがうかがえる。一方、食肉専門店では5等級が48%と最も多く、次いで4等級が38%、3等級が10%、2等級が4%となった。主な部位として、5等級はカタロ1ス、4等級及び3等級はモモが多かった。

開拓組織の動き

6月から7月にかけて予定されている、開拓組織の行事は次のとおり。

21日	香取開拓農協第73回通常総会
24日	福岡県畜産農協第48回通常総会
25日	佐賀県開拓畜産事協第4回通常総会
26日	肥後開拓農協第12回通常総会
29日	開拓ながさき農協第11回通常総会
20日	全開連理事会
	全国開拓振興協会臨時総会

秋田県農業試験場

秋冬キャベツ 施肥と組み合わせ可販収量10%増
ヘアリーベッチ緑肥栽培法

緑肥は土づくりや養分補給の効果が
あり、堆肥に代わる有機物として利用
されている。

マメ科緑肥「ヘアリーベッチ(以下、
ベッチ)」は、根粒菌が共生し、窒素
を固定するため、窒素肥沃度が向上す
る。一方、ベッチが分解され、この窒
素を化学肥料の代替として利用するに
は、供給される窒素量の見積もりが不
明であった。秋田県農業試験場は、ベ
ッチの窒素供給効果を検証し、秋冬キ
ャベツ栽培で化学肥料の30%減肥が可
能なことを明らかにした。

栽培試験を、18~19年にかけて秋田
県内3カ所のほ場で行った。各ほ場に
試験区として、堆肥+化学肥料慣行量
の「慣行区」、緑肥+化学肥料30%減の

「減肥区」、堆肥+緑肥+化学肥料慣
行量の「上乘A区」、または、緑肥+
化学肥料慣行量の「上乘B区」を設け
た。緑肥は、晩生品種のベッチを供試。

ベッチは4月に10a当たり3kg播種
して、5cm程度の浅耕をして覆土した。
約90日間栽培後、フレールモアで刈り
倒してから、ロータリ耕によって土壤
にすき込んだ。すき込んだベッチに含
まれている養分は、10a当りに窒素
(N)が12.6kg、リン酸(P₂O₅)が4.2
kg、カリ(K₂O)が12.5kg含まれていた。
すき込み後10~14日の腐熟期間を経
て、キャベツを定植した。キャベツの
可販収量は、堆肥無施用で化学肥料
を30%減らした減肥区でも、慣行栽培
と同等であった。また、上乘区では慣

表 キャベツの収量と形態

ほ場	区	全重量 (kg/m ²)	調整重 ²⁾ (kg/個)	球径 (cm)	球高 (cm)	可販収量 (kg/m ²)
A ¹⁾	慣行	8.53	1.66	19.4	13.4	5.83
	減肥	7.85	1.52	18.8	13.1	5.36
	上乘A	9.57	1.92	20.8	14.4*	6.77
B1 ¹⁾	慣行	10.96	1.90	22.3	14.1	6.71
	減肥	11.93	2.06	22.7	14.7	7.28
	上乘B	11.90	2.07	22.5	14.6	7.31
B2 ¹⁾	慣行	8.89	1.74	21.5	14.3	5.73
	減肥	11.15*	2.11	23.8**	15.6*	6.97
	上乘B	10.82	2.10	23.8**	15.9**	6.92

注1) 調査は収穫始め、A=18年11月16日、B1=18年11月12日、B2=19年10月30日に実施した。
注2) 調整重は外葉を1.5枚に調整した重さ。注3) 記号は、慣行に対して*: 5%、**: 1%水準で有意差あり
(Dunnett)。

【耕種概要】
A(西目): グライ低地土(転換2年目)、品種「あさしお」、栽植密度3.5株/m²、定植18年7月26日、収穫始11月16日、慣行施肥=牛ふん堆肥2kg/m²+化肥(N-P₂O₅-K₂O)=27.8-20.6-27.8g/m²(速効性肥料の追肥体系)
B1(にかほ): 灰色低地土(転換2年目)、品種「金剛」、栽植密度3.5株/m²、定植18年8月7日、収穫始11月12日、慣行施肥=牛ふん堆肥2kg/m²+化肥(N-P₂O₅-K₂O)=26.6-6.4-13.6g/m²[基肥は被覆尿素(LP40とLPS60)を50%含む]
B2(にかほ): 灰色低地土(転換2年目)、品種「金剛」、栽植密度3.3株/m²、定植19年8月7日、収穫始10月30日、慣行施肥=B1ほ場と同一

行栽培よりも約10%増加した(表)。

緑肥の導入によって掛かり増しとな
る費用は、10a当たりで緑肥種子が
3000円、フレールモアが2240円(価格約
78万円、導入面積5ha、耐用年数7年
とした減価償却費)、燃料費が475円で、
合計5715円となっている。

10a当たりの経済性をみると、30%
減肥では、化学肥料の費用など1万613
円が削減され、差し引きして4898円の

所得増となる。また、緑肥+化学肥料
慣行量施肥では、堆肥の費用5000円が
削減されるのみであるが、可販物収量
増加分の3万8160円が収入増となり、
3万7712円の所得増効果が見込める。

同栽培法の詳細については、秋田県
ホームページまたは農研機構発行の
「緑肥利用マニュアル-土づくりと減
肥を目指して-」(20年3月)を参照
のこと。

指定野菜 秋ニンジン収穫量約2割増
19年産、天候で春減少・夏秋増加

農水省はこのほど、「19年産指定野
菜(春野菜、夏秋野菜等)の作付面積、
収穫量及び出荷量」を公表した。前年
産に比べて、夏秋野菜は3%増加とな
ったものの、春野菜は1%減少した。

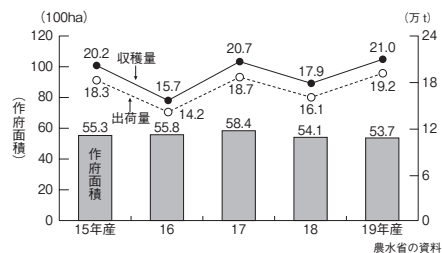
春野菜

作付面積は600ha(2%)減少して3
万5300ha、収穫量は2万9000t(1%)

減の192万9000t、出荷量は2万7000t
(1%)減の178万9000tとなった。特
に収穫量の伸び率が大きい品目をみる
と、春夏ニンジンと春ネギがともに
4%増でトップ。次いで、冬春ピーマ
ンが3%増などとなっている。

春夏ニンジンは暖冬により生育が良
好だったため、10a当たり収量が5%

図 秋ニンジンの作付面積、収穫量及び出荷量の推移



増の3900kg。また、春ネギは千葉県で
低温により作柄の悪かった前年産より
も生育が良好だったため、5%増の
2370kgとなった。

収穫量の減少率が大きい品目では、
春キャベツで5%減、冬春キュウリで
3%減などとなっている。

夏秋野菜

作付面積は700ha(1%)減少して6
万3500ha、収穫量は5万9000t(3%)

増の233万5000t、出荷量は6万3000t
(3%)増の204万tとなった。特に収
穫量の伸び率が大きい品目をみると、
秋ニンジンが21万tで18%増とトップ
(図)。次いで、夏ダイコンが8%増
などとなっている。

秋ニンジンは北海道及び青森県でお
おむね天候に恵まれ生育が良好となっ
たため、10a当たり収量が18%上回り
3910kg。また、夏ダイコンは北海道で
7月下旬から8月上旬の高温・多照に
より肥大が良好だったため、7%上回
り4280kgとなった。

収穫量が減少した品目は、夏秋レタ
スと夏秋ナスのみで、それぞれ2%減、
1%減。これらの品目以外は増加また
は前年同率だった。

農具使用後、消毒・洗浄を
生鮮野菜の衛生管理

野菜の栽培から出荷までの過程で問
題が生じれば、食中毒を起こす有害微
生物に汚染される恐れがある。

生で食べる野菜では、洗浄や消毒で
微生物を完全に除くことはできず、生
産段階でも衛生管理により、「付けな
い」「増やさない」ことが必要。農水省の
「生鮮野菜を衛生的に保つために」から
重要事項を改めて確認しておきたい。

○収穫する野菜に直接触れるハサミ
やナイフなどの農具は、使ったその日
のうちに洗い、必要に応じて消毒剤(消
毒用アルコールなど)で消毒する。野
菜に直接触れない農具や農機も、高圧
洗浄機などを用いて、水道水など飲用
に適した水で汚れを取り除く。

繰り返し使われるコンテナなどの収
穫容器は定期的に洗う。また、容器は
地面に直接触れないようシートを敷
き、容器の中にも敷物を入れて使う。

収穫物は、直射日光が当たらない、
できるだけ涼しい場所に置く。野鳥や

野生動物のふんで汚れたものは、他
の収穫物と混ぜずに廃棄する。

○ほ場または栽培施設では、排水
溝を設け、大雨時に汚水が流れ込む
のを防ぐとともに、速やかに排水で
きるよう努める。

野生動物だけでなく犬や猫などの
ペットも、有害微生物を持っている
可能性があるため入れないようにす
る。使わない機材や野菜残さなどの
廃棄物は放置せず、ネズミやハエな
どを引き付けられない場所で保管・処
理する。

○かん水や散布する薬剤の希釈な
どに使う水は、にごりや異臭がない
ことを確認する。汚染防止のため、
水源・水路・バルブ及びそれらの周
辺を定期的に点検する。

収穫部位に対して、収穫前にかん
水や薬剤散布をする場合、飲用に適
する水または水質検査で安全性を確
認した水、消毒した水を使う。

○農作業前や堆肥を扱った後は必
ず石けんで手洗いを。タオルの
使い回しはせず、使い捨てのペーパ
ータオルで手を拭く。

現場での安全対策に
農研機構の事事故例検索

農研機構は、効果的に農作業安全対
策を実現するための2つのサポートツ
ールの提供をウェブ上で開始した。

農作業事故を減らすためには、操作
ミスなどの人的要因だけでなく、「機
械・用具等」「作業環境」「作業・管
理方法」の各要因に対して具体的な改
善を図る必要がある。同機構は、単
なる注意喚起に留まらないように、現
場ごとに問題点の改善を図るため同ツ
ールを開発した。

①農作業事事故例検索システム

実際に起きた事事故例を検索でき
るというもの。北海道農作業安全運
進本部と連携し詳細な現地調査を行
った上で、「人」「機械・用具等」「作
業環境」「作業・管理方法」から原因

や改善策を分析している。

作目別の事故一覧から事故形態や機
械用具名称で絞り込み、該当する事
故報告をみることが可能。自身の生
産現場に潜在する類似の原因に気付
き、事故の防止に役立てることが可
能。

②対話型農作業安全研修ツール

農業法人や生産部会などの小集団を
対象にした研修会を効果的に行うた
めのもの。生産者への事前調査票(ア
ンケート)や、事前調査票の各項目
への対応などをまとめた資料が提供
されている。

生産者自身でヒヤリハット経験を事
前に調査票に記入し、研修で参加者
と研修担当者間とで安全対策のアイ
デアを出し合うことで、自発的な農
作業安全目標の作成を促すことが狙
い。

いずれも同機構が管理するウェブサ
イト「農作業安全情報センター」か
ら利用することができる。

茨城県畜産センター

乳用育成牛 配合3割代替、飼料費約1割減
粉碎粗米・トウフ粕サイレージ給与

輸入配合飼料は価格が不安定であり、国産飼料の利用によるコスト低減が求められる。

茨城県畜産センターは、約2mmに粉碎した未乾燥粗米とトウフ粕サイレージを混合した「粗米・トウフ粕サイレージ」の有効な調製法を確認。乳用育成牛へ給与したところ、発育や健康状態に影響なく、飼料コスト低減が期待できることが示唆された。

実用的規模のサイレージ調製試験

処理区は、粗米100%を水分調整して乳酸菌を添加したA区、粗米にトウフ粕25%及び乳酸菌を添加し混合したB区、粗米にトウフ粕サイレージを25%混合したC区、粗米にトウフ粕50%及び乳酸菌を添加し混合したD区の4区とした。

各区を60L容量の漬物たるに30kg

ずつ詰めて調製。屋内倉庫(約20～28℃)で71日間貯蔵後に開封し、発酵品質を分析した。

その結果、C区は、A区よりもpHが有意に低く、乳酸及び酢酸濃度が高かった(表1)。さらにC区では、たるとの上部と下部でpHや乳酸濃度に大きな差が無く、表面へのカビ発生が確認されなかった。そのため、C区の調製方法が有効だと考えられた。

乳用育成牛への給与試験

配合飼料の重量比30%を粗米・トウフ粕サイレージで代替した試験区(17頭)を設け、発育などを対照区(17頭)と比較した。期間は、離乳(約2ヵ月齢)～離乳後15週間(約6ヵ月齢)とした。

同サイレージは、調製後の含水率が約30%になるよう、粗米とトウフ粕サ

サイロ	区	乳酸菌	pH	乳酸(%)	酢酸(%)	プロピオン酸(%)	酪酸(%)	大腸菌(logCFU/g)	カビ生菌(logCFU/g)
上部	粗米 100%	A 添加	4.44 a	0.92 a	0.80 a	ND	a ND	ND	ND
	豆腐粕 25%	B 添加	4.51 a	1.00 a	0.11 b	ND	a ND	4.70	1.23
	豆腐粕サイレージ 25%	C 不添加	3.93 b	1.56 b	1.91 c	0.21	b ND	ND	ND
	豆腐粕 50%	D 添加	4.27	1.34	0.95	0.05	ND	1.35	2.50
内下部	粗米 100%	A 添加	3.97 a	1.59 a	0.21 a	ND	a ND	ND	ND
	豆腐粕 25%	B 添加	4.03 a	1.59 a	0.31 b	ND	a ND	ND	ND
	豆腐粕サイレージ 25%	C 不添加	3.85 b	1.74 b	1.84 c	0.24	b ND	1.00	ND
	豆腐粕 50%	D 添加	3.89	2.11	0.55	ND	ND	ND	ND

値は平均を表示、同列の異符号間に有意差あり、ND：不検出、CFU：コロニー形成単位、全試験区n=3

	1日増体重(kg/日)	飼料摂取量(kg/日)		飼料効率
		粗飼料	濃厚飼料	
対照区	1.00	1.76	2.66	0.23
試験区	0.96	1.70	2.79	0.21

値は平均を表示、両試験区n=17

表1、2ともに茨城県畜産センターの資料より

サイレージの重量割合を8:2とした。60L容量の漬物たるに、90Lのポリエチレン製の袋を二重にして、内側の袋の中に攪拌した同サイレージをたるのフチ下10cm程度まで詰め込んだ。その上に脱酸素剤と防腐剤を置き、ビニール紐で内側と外側のポリエチレン袋をそれぞれねじめるようにして密封。漬物たるにフタをし、直射日光の当たらない場所で約2ヵ月間常温保存した後、開封して給与した。

試験区は、1日増体重、飼料摂取量及び飼料効率に対照区と有意差が認められず、同等の発育を示すことが示唆された(表2)。ふん性状にも有意差はみられなかった。

飼料単価は、配合飼料が74.3円/kgであるのに対し、粗米・トウフ粕サイレージが52.4円/kgと安価で、飼料コストの低減が期待された。試験期間中の飼料費は約1割低減できた。

同調製法では、トウフ粕サイレージを副資材として利用しており、水や乳酸菌を添加せず発酵を進めることができる。同センターは、一般的な飼料用米と同様に給与可能で、6ヵ月齢以降から成牛になるまでの間も配合飼料を一部代替して給与可能と考えている。

19年度養豚農業実態調査

農業共済加入率、半数以下
「加入方法など分かりやすく」の声

(一社)日本養豚協会はこのほど、「19年度養豚農業実態調査」の結果を公表した。全国756経営体(19年8月1日時点)の回答を集計したもの。なお、回答数は各項目で異なっている。

◇肉豚出荷状況と繁殖成績

年間の肉豚出荷頭数(回答:642経営体)は合計559万4442頭で、1経営体当たり平均8714.1頭(前年度調査比11.1%増)。上物率(135経営体)は49.1%で、地域別では「九州・沖縄」

が63.3%と最も高い。

肉豚の平均出荷日齢(586経営体)は全国で184.0日(0.3日短縮)となった。地域別では、「近畿」が206.2日と最も長く、「北陸」が172.1日と最も短い。1日平均増体量は620.7g(4.4%減)、平均枝肉重量は75.0kg(0.3%減)で、歩留まりに大きな変化はない。

繁殖成績(556経営体)は、哺乳開始頭数が1腹当たり11.3頭(0.2頭増)、離乳頭数は10.1頭(0.1頭増)、年間分

農業共済の加入割合と加入していない理由

	経営体数	農業共済に加入している計(%)	農業共済に加入していない計(%)	加入していない理由(%)				
				経営体数	共済掛金が高い	加入方法がわかりにくい	掛金に対して支払額が見合わない	その他
全国	672	44.0	56.0	323	26.6	12.7	33.7	26.9
北海道・東北	174	38.5	61.5	90	25.6	16.7	31.1	26.7
関東	187	50.8	49.2	80	26.3	11.3	31.3	31.3
北陸	26	69.2	30.8	5	20.0	0.0	20.0	60.0
東海	55	43.6	56.4	29	24.1	27.6	24.1	24.1
近畿	17	23.5	76.5	11	0.0	9.1	63.6	27.3
中国・四国	47	38.3	61.7	26	38.5	3.8	38.5	19.2
九州・沖縄	166	42.2	57.8	82	29.3	8.5	37.8	24.4

(一社)日本養豚協会の資料を一部改変

改正飼養衛生管理基準
7月から豚等で適用

改正後の飼養衛生管理基準(豚・イノシシ)が7月1日から適用される。新設された事項で重要な点を抑えておきたい。

①飼養衛生管理に関わるマニュアル作成と従業員や関係者への周知徹底(来年3月31日まで猶予期間)。

②衛生管理区域へ野生イノシシが侵入しないよう、くぐり抜けを防止でき

るような防護柵などを設置。ネズミなどの隠れ場所を無くすため、防護柵周囲の除草も行う(今年10月31日まで猶予期間)。

③網目2cm以下の防鳥ネットなどを用いて、畜舎や関連施設への野鳥の侵入を防止する。ネットの破損がないかも確認し、見つけ次第すぐに直す(同)。

④豚の排せつ物が付着した恐れのある物品を衛生管理区域外に持ち出す場合には洗浄・消毒などを行わなければならない。

娩回数が2.2回(同数)となっており、いずれもほぼ横ばい。

交配方法(618経営体)は、「自然交配のみ」が33.1%、「人工授精(AI)のみ」が43.5%、「AIと自然交配を併用」が20.0%となっている。精液入手方法(447経営体)は、「全て外部導入」が49.7%と約半分を占め、「全て自家採精」は31.8%だった。また、AIを行わない理由として、「不要」「効率が悪い」「コストが高い」などが挙げられた。

◇農業共済について

加入状況(672経営体)は44.0%で、半数以上が未加入(表)。加入しない理由(323経営体・複数回答)は、「掛金に対して支払額が見合わない」が33.7%、「共済掛金が高い」が26.6%などとなっている。共済の内容に希望す

ること(461経営体・同)として、「加入方法、支払額の分かりやすさ」や「掛金を低くする」などが多い。

◇事故・衛生対策

事故率低減のための取り組みでは(704経営体)、何らかの対策を実施した割合は89.3%。具体的な方法(複数回答)は、「ワクチネーションプログラムの適切な見直し・変更」が59.4%でトップ。次いで、「衛生ゾーンを明確化し、長靴の履き替え・消毒を徹底」が58.0%、「管理獣医師などによる定期的指導を受ける」が51.8%と続いた。

重点的に実施している衛生管理方法(691経営体)は、「各豚舎への消毒槽の設置」79.6%、「車両消毒の徹底」75.4%、「農場では専用の作業着に着替える」66.6%が上位に挙げられた。

飼養衛生管理者の選任が必要

各都道府県へ6月中の登録を

飼養衛生管理の徹底のため、一部改正された家畜伝染病法がまもなく施行される。それにより、7月1日から全ての家畜所有者を対象として、衛生管理区域ごとに「飼養衛生管理者」1名の選任が義務付けられる。

飼養衛生管理者とは、衛生管理区域における飼養衛生管理の責任者のこと。経験や知識、管理指導の能力が豊富な者が望ましい。

飼養衛生管理者の業務は次の3つ。①飼養衛生管理基準に従事者や運送業者らが守っているかのチェック。守られていない場合には指導。

②各都道府県で開催される飼養衛生管理に関する研修会への参加。他の従事者へ研修内容の周知・教育。③国や都道府県から共有される飼養衛生に関する情報に即した対応。

各都道府県が定めている方法(FAXやメールなど)により、必要事項を今月中に報告する。これには連絡先の登録が必須。迅速かつ正確な周知を行うため、原則として電子メールで情報共有が行われる。本人の電子メールの利用が難しい場合、家族や所属する生産者団体の管理するメールアドレスを代わりに登録しなければならない。

送風こまめに湿気・熱のこもり防ぐ 初夏から暑熱対策を

気象庁の3ヵ月予報では、今年も全国的に平年より暑くなる可能性が高いとされている。また、今年は梅雨が長い傾向のため、湿気や熱のこもりに十分に注意した対策が求められる。

【湿気・熱気を取り除く】

梅雨の晴れ間や梅雨明け直後は、実際の気温よりも牛の体感気温が高くなる。牛舎内の湿気の対策には、ふん尿をこまめに牛舎から出し敷料を交換すること、牛舎周囲を除草して風通しを確保することなどが有効となる。

換気対策としては、天窗、地窓、側

面を開放し、換気扇や扇風機、ダクトで空気の流れを作り、牛舎内にたまった熱気を十分に追い出す。送風機に付いたホコリやクモの巣を取り除き、風力を回復させて稼働させることが重要。

そのほか、牛舎周りの片づけをして風通しを良くするなどの対策が有効となる。夜間にも換気を行うことで、日中の温度上昇を抑える。

【新鮮な水・良質な飼料給与】

エネルギーの消費が増えるため、暑熱時の肥育牛の飲水量は50L以上にも

なる。給水器の清掃をこまめに行い、水槽のぬめりや水の腐敗に十分注意し、常に新鮮な水が飲めるようにする。必要な場合、給水管を太くすることも有効。高温多湿は腐敗が進む大きな原因となるため、水槽周りの飼料やふん便はこまめに除去する。特に子牛は脱水症状になりやすいため、1日2回飲み水を交換し、肥育牛よりも水の汚れに注意する。

飼料給与は涼しい時間に行い、給与回数を増やす。嗜好性・消化性の良い飼料を与える。濃厚飼料やサイレージが腐敗しやすい時期のため、よく注意する。

また、ミネラル不足などに備え、鉍塩などを常置する。ルーメンアシドーシスの予防に重曹などを与えるのも効果がある。

【牛舎の温度・牛の様子に注目】

牛が快適に過ごせる気温は30℃が限界のため、密飼いを避けて体感温度に注意する。牛舎内には温度計を設置し気温をチェックする。牛舎側面へ、よしや寒冷紗などの設置やつる性植物などを植えて、日よけを行う。屋根へ水をまいたり、消石灰、断熱塗料を塗ることも効果的。

牛も人間同様、熱中症になりやすい。体温が39℃前後から41℃以上に上昇した場合にはすぐに対処する。行動やふん便などをよく観察し、呼吸が速い、大量のよだれなどの異常がみられた場合には、送風して体を冷やす・四肢から胸へと徐々に水をかけるなどの対策を行う。状態が悪ければ獣医師の診察を受ける。異常の早期発見・治療ができるよう、毎日、個体観察を徹底する。

肉用牛「水質汚濁」22戸増加 19年畜産経営への苦情発生状況

農水省はこのほど、19年の「畜産経営に起因する苦情発生状況」を公表した。

全体の発生戸数は1491戸で、前年から11戸増加した。苦情発生率(苦情発生戸数÷飼養戸数)は2.0%で、17年から同率が続いている。

畜種別で発生戸数の割合をみると、乳用牛が26.1%(前年比1.4%増)で最も多く、次いで豚26.0%(1.2%増)、肉用牛23.5%(2.9%増)だった(表)。上位3畜種の順位は前年と変わっていない。

発生内容別では、悪臭関連52.2%

(1.2%減)が最も多く、水質汚濁関連20.6%(1.6%減)、害虫関連13.2%(1.0%増)と続いた。

また、畜種別の発生率をみると、採卵鶏10.3%(0.3%増)、豚が9.0%(同率)、ブロイラー3.6%(0.1%増)の順だった。飼養規模別にみると、ブロイラー以外の畜種で規模が大きくなるほど発生率が高まる傾向がみられた。

肉用牛では、発生戸数・発生率ともに、351戸(46戸増)・0.8%(0.2%増)と上昇。内容は、水質汚濁関連が93戸(22戸増)と最も大きく前年から増えた。

畜産経営に起因する苦情の畜種別・内容別発生戸数(19年) (単位:戸、%)

区分	悪臭関連	水質汚濁関連	害虫関連	その他	合計
乳用牛	240 (26.4)	75 (20.9)	50 (21.7)	87 (36.0)	389 (26.1)
肉用牛	192 (21.2)	93 (25.9)	54 (23.5)	65 (26.9)	351 (23.5)
豚	273 (30.1)	130 (36.2)	22 (9.6)	34 (14.1)	388 (26.0)
採卵鶏	120 (13.2)	40 (11.1)	97 (42.2)	14 (5.8)	218 (14.6)
ブロイラー	60 (6.6)	14 (3.9)	3 (1.3)	9 (3.7)	81 (5.4)
馬	3 (0.3)	2 (0.6)	3 (1.3)	1 (0.4)	8 (0.5)
その他	20 (2.2)	5 (1.4)	1 (0.3)	32 (13.2)	56 (3.9)
合計	908(100.0)	359(100.0)	230(100.0)	242(100.0)	1,491(100.0)
構成(%)	52.2	20.6	13.2	13.9	100.0

注1:「悪臭関連」には、悪臭単独の苦情に加え、悪臭以外の苦情(水質汚濁、害虫発生等)を併発しているものも含む(その他の分類も同様)。このため、各分類の戸数を合計した戸数と、「合計」欄の戸数は一致しない。
注2:「その他」に分類される苦情の内容は、ふん尿の流出、騒音等である。

薬剤の用量・用法を守る 正しい消毒で感染症予防

新型コロナウイルス感染症は終息しておらず、消毒は非常に重要となる。牛でも各種の感染症の大流行のリスクは常にあるため、日々消毒・防疫対策を徹底し予防に努めなければならない。

◆出入口の消毒を

畜舎への出入口には消石灰を散布して、石灰帯を作る。出荷・飼料トラックなど、出入りする関係車両のタイヤ周り、運転席マット、荷台などの消毒確認を必ず行う。

◆消毒薬をよく点検する

消毒薬は放置しておくとも効果が薄れるため、必ず定期的に交換する。特に農場・牛舎・事務所の入り口の踏み込み消毒槽はこまめに確認する。消毒薬の効果を薄めないよう、排せつ物が長靴などに付いていないかも消毒前によく確認する。また、他の薬剤と混ぜてしまうと効果が薄れる。薬剤の用法・用量を守り、正しく調整して消毒を行う。

◆石灰乳塗布も有効

生産性向上のため、衛生的な飼養環境の維持・改善が重要。牛舎に石灰乳を塗布して消毒することは、ほとんど

の感染症の抑制に有効となる。石灰が水と反応して強アルカリ性となる効果に加えて、消毒殺菌のほか、皮膚を作ることで壁などに潜む病原体を封じ込める効果などが期待できる。年1~2回、定期的実施することで消毒効果を保つことができる。

交雑種で増額続く 牛マルキン4月分

農畜産業振興機構はこのほど、20年4月販売分の肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の補てん金単価(概算払)を公表した。交雑種と乳用種で補てんが行われる。新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより販売価格の低落が続いていることから、交雑種は3ヵ月連続、乳用種は4ヵ月連続の発動となった。

1頭当たりの補てん金単価は、交雑種が14万4130.1円、乳用種が4万8145.1円となった。前月に比べて交雑種が2万7414.5円増額、乳用種が6417.4円減額した。

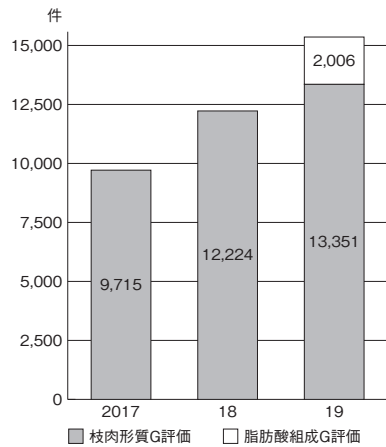
家畜改良事業団 肉用牛ゲノミック評価、1万5千件超に 個別農家でも関心高まる

肉用牛の改良は様々な技術を用いて進んでおり、関係者の関心が高まっている。家畜改良事業団はこのほど、「肉用牛のゲノミック評価(G評価)等の19年度の実施状況について」を公表した。

19年度の肉用牛のG評価実施件数は、1万5357件(前年度比25.6%増)だった。17年から増加が続いている。そのうち、枝肉6形質の評価の件数は1万3351件(9.2%増)だった。大規模経営体からの大口のものを除くと、中・小規模からは39.2%増えており、肉質改良に興味を持ち取り組む経営体が増えていることがうかがえる。

19年10月にスタートした脂肪酸組成(オレイン酸など)の評価は2006件。半数以上は県などからの依頼だが、個別農家とみられる依頼も多く、生産者の注目が高まっているとみられる(図)。

肉用牛G評価の実施件数



G評価の前段階の肉用牛のSNPタイプピング(DNAの構成要素の一つ、SNPを測定する技術。個体ごとのSNPの違いが能力・特徴・形質などに関連することがある)のみの検査は3054件で、89.8%増と大幅に増えており、他機関でのG評価実施数も増加しているとみている。

ゼンカイミート(株)工場直売再開

最善の衛生管理で牛肉提供

新型コロナウイルスの感染拡大は、食肉流通に多大な影響をもたらしている。そのような中、熊本県錦町のゼンカイミート(株)が工場直売を再開したとの報を受け、羽田昭二社長に現況等を聞いた。

◇ ◇ ◇

ゼンカイミート(株)は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、毎月最終土曜日に開催している工場直売を4月は中止いたしました。これは、口蹄疫の影響を考慮し中止した2010年5月以来で、10年ぶり2回目のこととなりました。

また、例年3月から受入れを実施していたバーベキューハウス(収容能力約200名)を活用したバーベキューの予約受付も3月から5月第3週まで中止しておりましたが、5月14日の熊本県を含む39県の緊急事態宣言の解除を受け、再開することといたしました。

熊本県の衛生対策に細心の注意を払い、人の分散を考え開店時間を1時間前倒して5月30日(土)、工場直売の再開に臨みましたが、曇り模様ではありましたが、毎月楽しみにされていたお客様(近隣の生産者を含む)が大勢(レジ通過602)来場され、「入場制限



(店内人数の抑制)・マスク着用・手指消毒・一定の間隔を保つ(写真左)」等の多くの制約にもご理解いただき、喜んで買物をさせていただくことができました(写真右)。

ゼンカイミート(株)といたしましては、開拓組織の生産者の方々と共に歩んできており、今般の状況は非常に影響が大きく、日本のみならず世界的に行動が制約されるという、まさに未曾有の出来事であり、国及び行政の支援はもとより、生産者・消費者・組織

・事業者が連携していくことが、この難局を乗り越えていくことにつながると思っています。

最後になりますが、当社では、職域販売・通販・ふるさと納税返礼品等による販売を実施しております。これからも衛生管理に最善を尽くし、生産者が丹精込めて生産した安心・安全で美味しい牛肉の提供に努めてまいります。何とぞよろしくお願いたします。

お問い合わせ・ご注文は、お気軽にTEL:0120-48-1117まで。

牛枝肉

梅雨時に出荷頭数増の予測。相場は弱基調か

5月の相場は、4日に新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が延長となり、飲食店等の営業自粛が継続したが、前月に比べ反発した。

【乳去勢】5月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は985円(前年同月比93%)となり、前月に比べ122円上げた。

農畜産業振興機構の需給予測によると、6月の乳用種の全国出荷頭数は2万6400頭(105%)と、増加に転じると見込んでいる。

【F₁去勢】5月の東京市場の交雑種(F₁)去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1274円(前年同月比77%)、B2は1136円(73%)となった。前月に比べそれぞれ85円、105円上げた。

同機構は6月の交雑種の全国出荷頭数を1万8300頭(100%)と、前年並みを予測している。

【和去勢】5月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が1833円(前年同月比76%)、A3は1617円(73%)となった。前月に比べそれぞれ145円、102円上げた。A5も196円高の2223円(82%)と上げに転じた。

同機構は6月の和牛の全国出荷頭数は3万7500頭(109%)と、引き続き前年同月を上回ると予測している。全品種の出荷頭数は8万3500頭(106%)と予測している。

一方、6月の輸入量は総量で4万3600t(92%)と予測。内訳は冷蔵品が1万9700t(92%)、冷凍品が2万3900t(92%)と見込んでいる。

緊急事態宣言は5月25日に全面解除されたが、引き続き感染防止策が必要。

外出を控える動きや在宅勤務の広がりが予想される。牛肉の販路となる飲食店やホテルなどの客数が元に戻るには、時間がかかるとみられる。

外食需要の回復が期待されるが、梅雨入りで荷動きが鈍くなる時期となり、出荷頭数の増加予測からも、相場は弱基調が見込まれる。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が900~950円、F₁去勢B3が1200~1300円、B2は1050~1150円、和牛去勢A4が1700~1800円、A3は1550~1650円での相場展開か。

104%、過去5年同月平均比98%)、7月は128万2千頭(94%、100%)と平年をやや下回ると見込んでいる。

農畜産業振興機構の需給予測によると、6月の輸入量は総量で6万3500t(前年同月比83%)の見込み。内訳は冷蔵品が2万5600t(80%)、冷凍品が3万7900t(86%)。冷蔵品は、北米の現地工場の稼働停止に伴う生産減少により、冷凍品は生産減少に加えて外食産業向けを中心とした荷動き鈍化のため、ともに前年同月を大きく下回ると予測している。

家庭消費向け需要の継続が見込まれる一方、出荷頭数は平年をやや下回り、輸入量は大きく減る予測。国産の引き合いが強まり、引き続き堅調な相場展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が620~650円、中物は570~600円での相場展開か。

300円(前年同月比92%)、F₁(雄雌含む)は21万3958円(66%)となった。前月に比べそれぞれ1万7894円、9619円上げた。乳雄は取引頭数が少なく、上伸した。

取引頭数で平均価格が上下することが予想されるが、総じてもちあいの展開か。

【和子牛】5月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、62万2351円(前年同月比76%)となった。前月に比べ2万6458円安と続落した。

梅雨入りで枝肉相場は弱基調が見込まれている。子牛導入の需要が弱まる時期でもあり、弱もちあいの展開が予想される。

5月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	790	837	295	295	233,850	222,054	793	753
	F ₁ 去	877	1,141	318	320	400,585	414,335	1,260	1,295
	和去	1,218	1,245	316	312	627,537	660,447	1,986	2,117
東北	乳去	4	2	205	148	99,000	67,650	484	457
	F ₁ 去	-	7	-	314	-	308,629	-	982
	和去	2,088	2,026	307	305	583,996	616,424	1,903	2,021
関東	乳去	48	61	276	277	252,290	265,027	915	955
	F ₁ 去	81	133	312	304	409,295	411,946	1,311	1,356
	和去	658	933	277	263	590,315	618,349	2,134	2,352
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	1	58	134	273	389,400	648,089	2,508	2,374
東海	乳去	14	14	293	288	237,835	231,314	811	802
	F ₁ 去	50	52	301	296	341,286	331,543	1,134	1,121
	和去	390	283	266	266	667,158	675,306	2,508	2,536
近畿	乳去	-	1	-	153	-	135,300	-	884
	F ₁ 去	-	3	-	241	-	413,966	-	1,718
	和去	384	369	256	257	566,591	576,816	2,213	2,243
中四国	乳去	81	99	276	272	212,965	194,611	772	716
	F ₁ 去	233	234	311	315	365,870	374,164	1,178	1,189
	和去	410	998	290	289	601,541	594,968	2,073	2,060
九州・沖縄	乳去	-	27	-	310	-	232,915	-	751
	F ₁ 去	77	316	302	314	373,528	379,430	1,237	1,208
	和去	8,041	7,252	294	292	635,725	669,636	2,163	2,291
全国	乳去	937	1,041	292	292	232,473	221,988	796	760
	F ₁ 去	1,318	1,886	315	316	391,153	400,658	1,242	1,268
	和去	13,190	13,164	295	292	622,351	648,809	2,110	2,222

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

豚枝肉

出荷頭数・輸入量減で、引き合い強まるか

5月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が630円(前年同月比104%)、中物は600円(105%)となった。前月に比べそれぞれ19円、12円上げた。家庭消費向け需要が堅調で、高値の相場展開となった。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、6月は125万7千頭(前年同月比

素牛 スモール

枝肉弱基調で、乳牛・和子牛とも弱もちあいか

【乳素牛】5月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が23万2473円(前年同月比102%)、F₁去勢が39万1153円(78%)だった。前月に比べ乳去勢は1万485円上げ、F₁去勢は9505円下げた。

枝肉相場の短期的な回復は見込み難しく、素牛価格はもちあいから弱含みで推移か。

【スモール】5月の全国23市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、暫定値)は、乳雄が13万